

令和 4 年 6 月 9 日現在

機関番号：84433

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2021

課題番号：18K01115

研究課題名（和文）博物館評価の構造的枠組の創出と博物館界による独自の認証制度の開発

研究課題名（英文）Creation of a structural system of museum evaluation together with development of its original certificate system by the museum world

研究代表者

山西 良平（Yamanishi, Ryohei）

地方独立行政法人大阪市博物館機構（大阪市立美術館、大阪市立自然史博物館、大阪市立東洋陶磁美術館、大阪・大阪市立自然史博物館・外来研究員

研究者番号：70132925

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,800,000円

研究成果の概要（和文）：意見交換の場として「博物館の在り方を考える研究懇談会」を設け、3年間で計9回の会合を開催し、延べ99名の博物館関係者の参加を得た。その内容を成果報告書「日本の博物館のこれから」第2～4巻として刊行し、計28編の論考を収録した。博物館の評価基準については学芸員を対象としたアンケートを実施し、現場で重要視されている活動の把握を試みた。研究活動の評価については、規模の異なる自然史系博物館による研究会を開催し、問題意識を共有した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

博物館行政に関わる近年の状況変化の中で、「博物館の在り方を考える研究懇談会」での論議とそれに基づく論考の数々は、折からの博物館法改正に向けた文化審議会等での検討に資するものとなった。また、論議の内容は博物館評価をはじめ倫理、法・法体系、経営、ネットワーク、資料・アーカイブ、学芸員（制度）、施設・利用者など多岐に亘り、期間中に開催されたICOM京都大会との相互作用もあり、博物館の在り方を幅広く統合的に捉える上で有意義な機会となった。

研究成果の概要（英文）：We set up "Research association for museum management & future", as a discussion table, 9 times in 3years, with 99 attendee of museum researchers. We published "Future of Japanese Museums" No2- 4, with 28 original papers as the outputs of fruitful discussions. We assessed "museum evaluation standard" by the survey with questionnaire sheet for curators, with special reference to the points which are thought to be most important by curators. For evaluation of research activity, we seek common understandings between large and small museums in the discussions of symposium.

研究分野：博物館学

キーワード：博物館評価 博物館登録制度 博物館法 市民参画 市民科学 資料保存 文化政策 学芸員

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

2019年のICOM京都大会開催が決定し、内外において日本の博物館に対する関心が高まっていた。一方で博物館行政に関わる2018年以降の急激な状況変化(文化芸術基本法の制定、文化財保護法の改正、観光立国、博物館行政の文化庁への移管、社会教育施設の所管の弾力化など)の中で、博物館法改正の機運も芽生え、登録制度・学芸員制度などの抜本改正への期待も強くなっていた。

2. 研究の目的

本研究はこのような渦中で開始したため、博物館評価のみならず、日本の博物館界が抱えている諸課題を幅広く取り上げ、関係者による論議の場を形成し、論点を共有することを主眼として実施した。扱ったテーマは博物館評価をはじめ、倫理、法・法体系、経営、ネットワーク、資料・アーカイブ、調査研究、学芸員(制度)、施設・利用者などに及んでいる。

3. 研究の方法

(1)博物館学研究者15名による「博物館の在り方を考える研究懇談会」を設立し、多岐にわたるテーマについて論議した。以下に開催経過と主な論議内容を示す(第1~6回は東京で開催、第7~9回はオンライン開催)。

第1回:2018年12月10日(出席者7名)博物館制度改正の方向性について

第2回:2019年2月4日(出席者10名)課題の抽出と整理、論議の進め方

第3回:2019年4月17日(出席者11名)法体系における博物館の位置付け、文化審議会答申について、資料廃棄の方針について、アーカイブの推進、博物館の予算、研究の位置付け、開かれたミュージアムとは、世代間倫理について

第4回:5月22日(出席者10名)行動規範・倫理、登録制度と大学評価、学芸員制度、拠点博物館制度

第5回:7月24日(出席者10名)出版予定の論集について

第6回:11月8日(出席者11名)文化審議会博物館部会での議論について、ICOM大会の振り返り

第7回:1月24日(出席者14名)博物館の原則・行動規範の改定案について

第8回:2月23日(出席者15名)新登録制度に盛り込むべき内容

第9回:3月31日(出席者11名)博物館資料の処分について

(2)研究会「自然史系博物館における学術研究とその位置づけを考える」の開催

博物館法などにおいて学術研究の位置づけが十分でなく、また博物館現場においてもその取扱いは千差万別であるという現状認識のもとに、自然史系博物館の事例と現状を題材としつつ、博物館における学術研究の意義と評価について事例を交換する機会を設けた。開催日:2018年10月10日、会場:大阪市立自然史博物館。共催:西日本自然史系博物館ネットワーク。話題提供:科研費事業が博物館活動にもたらした波及効果(大阪市立自然史博物館)、琵琶湖博物館の研究と研究評価、面河山岳博物館の地域に根差した研究活動。出席者13名。

(3)博物館登録制度における評価基準に関するアンケート調査

現場の学芸員を対象に、日本博物館協会が提案している新たな登録審査基準案について、

研究や資料収集活動において重視すべきポイントを抽出することを目的として、オンライン形式によるアンケート調査を2021年1月に実施した。回答者128名。

4. 研究成果

「博物館の在り方を考える研究懇談会」の参加メンバーをはじめとする博物館学研究者に呼びかけて、博物館評価、法制度及び博物館の在り方に関わる論考を募り、過年度の科研費事業「『対話と連携の博物館』の実践的総括に基づく博物館運営の新たな指針の構築に向けて」(基盤研究(C), 課題番号 26350396, 2014 - 2016年度)の報告書の続編という形で、論集「日本の博物館のこれから」II~IVを出版するとともにweb公開した。「研究懇談会」での論議もこの報告書に反映されている。

【収録論文】

第II巻

第一部 博物館の役割・機能と博物館法

- 開かれた博物館へ - 各地の博物館での取り組みの現状と、今後に向けて - (島絵里子)
- 地域の文化遺産の保存・活用に係る博物館の役割 (浜田拓志)
- 博物館法のあるべき姿に向けて (鷹野光行)
- 近年の博物館行政と博物館の社会的役割・機能について (山西良平)
- 博物館施設群を全体として強化するために (佐久間大輔)
- 登録制度によるスタンダード設定とネットワークによる機能強化 (佐久間大輔)
- 博物館としての動物園水族館の在り方 (高田浩二)

第二部 行動規範・倫理と評価

- 博物館関係者の倫理規程 国内外と類縁機関の現状 (佐々木秀彦)
- 博物館評価の現状と今後 - 新たな制度の構築に向けて - (高井健司)
- 博物館評価を考えるための大学評価の事例 (布谷知夫)

第三部 人材育成と学芸員制度

- 学芸員制度の問題点 (矢島國雄)
- 我が国における学芸員養成の現状と展望 (浜田弘明)
- 博物館の基盤となる学芸員体制の維持と高度化を考える (佐久間大輔)
- 多様なミュージアムプロフェッショナル育成のために (佐久間大輔)

第III巻

- 博物館法の課題～断章 (栗原祐司)
- 博物館法をめぐる古くて新しい課題 (半田昌之)
- デジタルアーカイブの体系的な整理, 構築, 公開と博物館法 (浜田拓志)
- 持続可能な博物館経営の実現に向けて - PDCA サイクルをめぐる現状と課題 - (高井健司)
- 博物館施設のこれからのについて いくつかの提案 (名児耶明)
- 「博物館の原則」・「博物館関係者の行動規範」改定私案 (佐々木秀彦)

第 巻

- 報告書や提言から読み解く博物館法改正に向けた課題 (佐久間大輔)
- 博物館総合調査とアンケート調査結果から見た博物館現場の課題 (佐久間大輔)
- 博物館法改正に向けた逐条点検の試み (山西良平・佐久間大輔・高井健司)
- 新たな博物館登録制度における審査主体と「第三者組織」について (山西良平)

博物館の収蔵資料の処分について（金山喜昭）

多目的化する博物館における学芸員にとっての研究の位置付けを考える - 予察として -
（佐久間大輔）

博物館は赤字なのか～入館料収入をめぐるコストパフォーマンス～（中尾智行）

ミュージアムが姿・形を変えてあらゆる人々のところに飛び込んでいくための一提案：物理的（フィジカル）形態とデジタル形態を組み合わせる（島絵里子）

前川國男による宮城県美術館の除却問題 - 文化財の保存と活用の理論と実践 - （芳賀満）

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計18件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 10件）

1. 著者名 佐久間 大輔	4. 巻 17
2. 論文標題 コロナ禍で博物館の受けた影響、見えてきた価値	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 文化経済学	6. 最初と最後の頁 1~4
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11195/jace.17.2_1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 佐久間大輔	4. 巻 90
2. 論文標題 ICOMの指し示す自然史博物館の将来の機能	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 金属	6. 最初と最後の頁 704-709
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 佐久間大輔	4. 巻 55(623別冊)
2. 論文標題 博物館は持続可能性を社会にもたらすか?	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 博物館研究	6. 最初と最後の頁 27-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 佐久間大輔	4. 巻 125
2. 論文標題 コロナ禍の中で、あえてこれからのミュージアムを考えてみる	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ミュゼ	6. 最初と最後の頁 20-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山西良平	4. 巻 2
2. 論文標題 近年の博物館行政と博物館の社会的役割	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本の博物館のこれからII -博物館の在り方と博物館法を考える-	6. 最初と最後の頁 33-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20643/00001483	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐久間大輔	4. 巻 2
2. 論文標題 博物館施設群を全体として強化するために 登録制度によるスタンダード設定とネットワークによる機能強化	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本の博物館のこれからII -博物館の在り方と博物館法を考える-	6. 最初と最後の頁 39-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20643/00001484	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐久間大輔	4. 巻 2
2. 論文標題 博物館の基盤となる学芸員体制の維持と高度化を考える	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本の博物館のこれからII -博物館の在り方と博物館法を考える-	6. 最初と最後の頁 117-124
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20643/00001491	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐久間 大輔	4. 巻 2
2. 論文標題 多様なミュージアムプロフェッショナル育成のために	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本の博物館のこれからII -博物館の在り方と博物館法を考える-	6. 最初と最後の頁 125-130
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20643/00001492	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐久間大輔	4. 巻 55(別冊)
2. 論文標題 博物館は持続可能性を社会にもたらすか？	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 博物館研究	6. 最初と最後の頁 27-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐久間大輔	4. 巻 8(2)
2. 論文標題 市民科学のプラットフォームとしての自然史博物館 (序論として)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 サイエンスコミュニケーション協会誌	6. 最初と最後の頁 10-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐久間 大輔	4. 巻 68
2. 論文標題 共生の時代のアウトリーチとアドボカシー：生態学コミュニケーターの担うもの	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本生態学会誌	6. 最初と最後の頁 223～232
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18960/seitai.68.3_223	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Daisuke SAKUMA	4. 巻 2019/1
2. 論文標題 Building Collections, Nurturing People, Creating Culture: Considering the Potential for Museums of Cities, from the Point of View of a Natural History Museum	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 CAMOC Review	6. 最初と最後の頁 11-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐久間 大輔	4. 巻 4
2. 論文標題 報告書や提言から読み解く博物館法改正に向けた課題	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本の博物館のこれから IV = Future of Japanese Museums 4	6. 最初と最後の頁 49 ~ 56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20643/00001593	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐久間 大輔	4. 巻 4
2. 論文標題 博物館総合調査とアンケート調査結果から見た博物館現場の課題	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本の博物館のこれから IV = Future of Japanese Museums 4	6. 最初と最後の頁 57 ~ 66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20643/00001594	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山西 良平、佐久間 大輔、高井 健司	4. 巻 4
2. 論文標題 博物館法改正に向けた逐条点検の試み	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本の博物館のこれから IV = Future of Japanese Museums 4	6. 最初と最後の頁 67 ~ 77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20643/00001595	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山西 良平	4. 巻 4
2. 論文標題 新たな博物館登録制度における審査主体と「第三者組織」について	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本の博物館のこれから IV = Future of Japanese Museums 4	6. 最初と最後の頁 79 ~ 90
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20643/00001596	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐久間大輔	4. 巻 291
2. 論文標題 2022年博物館法改正への道程と論点	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ヒストリア	6. 最初と最後の頁 55-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐久間大輔	4. 巻 128
2. 論文標題 変わっていく社会、博物館。「博物館法」は遠くから見ているだけか？	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ミュゼ	6. 最初と最後の頁 26-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計9件（うち招待講演 3件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 山西良平
2. 発表標題 博物館法をめぐる諸課題と法改正の展望
3. 学会等名 全日本博物館学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 釋知恵子・佐藤優香・北村美香・佐久間大輔
2. 発表標題 博物館における教育プログラム実践家のための評価手法の開発
3. 学会等名 全日本博物館学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐久間大輔・釋知恵子
2. 発表標題 展示意図・目的に沿った展示事業評価を目指して
3. 学会等名 全日本博物館学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐久間大輔
2. 発表標題 自然史資料を世界の共有財産として保全するために ICOM-NATHISTの要求する管理者への保全努力と社会との " engagement " の追求
3. 学会等名 全科協第26回研究発表大会
4. 発表年 2018年～2019年

1. 発表者名 佐久間大輔
2. 発表標題 大阪市立自然史博物館と市民科学 資料の収集・研究から教育普及までの協働
3. 学会等名 シンポジウム「新」自然史博物館（台湾国立博物館）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐久間大輔
2. 発表標題 ソーシャルなネットワークの中の博物館 大阪市立自然史博物館を例に.
3. 学会等名 2018年国際博物館の日記念シンポジウム（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山西良平
2. 発表標題 大阪市における博物館群の地方独立行政法人化の取り組み大阪市における博物館群の地方独立行政法人化の取り組み大阪市における博物館群の地方独立行政法人化の取り組み
3. 学会等名 シンポジウム「指定管理者制度による公立博物館運営の動向と展望」(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山西良平
2. 発表標題 新たな博物館登録制度における審査主体としての「第三者組織」の在り方について
3. 学会等名 全日本博物館学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 佐久間大輔
2. 発表標題 博物館の現状の課題はなにか、博物館法のどこを変えるべきなのか
3. 学会等名 全日本博物館学会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 今村 信隆、佐々木 亨	4. 発行年 2021年
2. 出版社 水曜社	5. 総ページ数 304
3. 書名 学芸員がミュージアムを変える！	

1. 著者名 小川 義和、五月女 賢司 編著	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ジダイ社	5. 総ページ数 354
3. 書名 発信する博物館 持続可能な社会に向けて	

1. 著者名 金山喜昭	4. 発行年 2020年
2. 出版社 同成社	5. 総ページ数 251
3. 書名 転換期の博物館経営	

1. 著者名 金山 喜昭	4. 発行年 2020年
2. 出版社 同成社	5. 総ページ数 266
3. 書名 転換期の博物館経営	

1. 著者名 本間 浩一	4. 発行年 2018年
2. 出版社 樹村房	5. 総ページ数 227
3. 書名 ミュージアムのソーシャル・ネットワーキング	

〔産業財産権〕

〔その他〕

大阪市立自然史博物館リポジトリサービス
https://omnh.repo.nii.ac.jp/index.php?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_snippet&index_id=7&pn=1&count=20&order=7&language=japanese&page_id=13&block_id=21

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	佐久間 大輔 (Sakuma Daisuke) (90291179)	地方独立行政法人大阪市博物館機構（大阪市立美術館、大阪市立自然史博物館、大阪市立東洋陶磁美術館、大阪・学芸課・学芸課長 (84433)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	金山 喜昭 (Kanayama Yoshiaki)		
研究協力者	栗原 祐司 (Kurihara Yuji)		
研究協力者	佐々木 亨 (Sasaki Toru)		
研究協力者	島 絵里子 (Shima Eriko)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	高井 健司 (Takai Kenji)		
研究協力者	高田 浩二 (Takada Koji)		
研究協力者	名見耶 明 (Nagoya Akira)		
研究協力者	布谷 知夫 (Nunotani Tomoo)		
研究協力者	芳賀 満 (Haga Mitsuru)		
研究協力者	浜田 拓志 (Hamada Takushi)		
研究協力者	浜田 弘明 (Hamada Hiroaki)		
研究協力者	半田 昌之 (Handa Masayuki)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	矢島 國雄 (Yajima Kunio)		
研究協力者	中尾 智行 (Nakao Tomoyuki)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関